

希望の子

小林市立南小学校 校長通信
令和4年2月14日 第24号 (文責 校長 吉井秀一)
TEL: (0984) 23-3520 E-mail:1403eb@miyazaki-c.ed.jp

オミクロン株の脅威は、重症化の可能性ではなく、その感染力だと言われてきました。しかし今、その感染力が結局は重症化の人数を引き上げるという油断できない状況になっています。

保護者の皆様におかれましても、職場やご家庭での感染対策に毎日ご苦労されています。また、いることと思います。また、小林市も明らかに第5波より深刻な状況となっています。先が見通せないことに体力的にも精神的にも疲れが溜まってしまいます。子どものためにも大人が踏ん張らなければ…と職員も今一度、気持ちを奮い立たせているところです。

いつ、どこで感染するか分からぬ状況ですが、リスクを減らす取組を怠らず、地道に実践していくことが、今までがんばりましょう。

以前に紹介した「企業が求め
る人材」のひとつに「素直さ」
が挙げられていたことを覚え
ていらっしゃるでしょうか。素
直であるとは、人の話に耳を傾
け、理解しようと努力し、それ
を実践しようとする姿勢とで
も表現できるでしょうか。その
ような人であれば、企業でも
「伸びる人材」として期待され
るのでしょう。

ここで重要なのは「素直さ」
とは「姿勢」であり、「能力」
とは違うということです。

「能力」は育てる部分もあり
ますが、持つて生まれたものが大
きく働きます。私など、優秀な
方と話をすると、やはり脳の容
量が違うことを実感します。

しかし、「素直さ」とは姿勢
です。「できる、できない」で
なく、「するか、しないか」
という意志の働きです。では、
「素直さ」が育つためには、ど
んな環境が必要なのでしょう。

誤解を招く前に説明する「素直さ」がすべてではありません。歴史を切り拓いてきたは、どちらかというと「素直でなかつた人が多いとよくわれます。しかし、それは非凡な才能も併せ持つ、まさに歴に名を残すような人物です。く一般的には素直であることは人を伸ばすと考えます。

(では、話を戻して…)

私見ですが、最近になつ「素直さ」は育てることがでるのでないかと考えるよになつてきました。

子どもたちをみてみると「〇〇してね。」という大人依頼に「はーい。」という子と「えー。今?」とか「何でつ」という子に分かれます。前者素直な感じがしますよね。

では、なぜ「はーい。」と事ができるのでしょうか。そは、その二人の間に信頼関係あるからだと考えます。

果たした後に「ありがとう」のお礼を受け、家族が喜んでくれることが分かっていれば、安心して「はーい。」と言えるでしょう。結果ではなく、取り組もうとする姿と、それが認められる信頼関係です。

逆に「まだ、せんとかつ。！」と猶予なしに怒られる。また、大人の権威で押しつけられ、挙げ句の果てにお礼どころか結果にまで不満を言われる。こんな経験が積み重なれば、大人に「おいっ。」と声を掛けられた瞬間に背を縮めて警戒する子に育つでしょう。

子どもたちには「はい。」の返事ができることを学校の目標に示しています。この素直な返事は、自分が認められているという自信と、相手の求めを受け入れる勇気が必要なとても難しい課題です。

大人が根気よくがんばれば、必ず育つと信じています。「ありがとうございます。」を忘れずに。

「すなお」を育てる

引き続き警戒 先日お知らせしましたが、早めの下校措置を継続します。今しばらくの辛抱…と希望を持ちたいところです。保護者の皆様には、学校を取り巻く環境に最大限の配慮をいただいていることに深く感謝いたします。

「南小学校が受け止めなければならないこと」

～PTA 講演会「スマホ時代の子どもたちのために」を受けて～

12月15日(水)兵庫県立大学准教授竹内和雄先生の講演の続きです。

ご一読ください。

- SNS をやっている南小の子。親が風呂には入っている間に999件ぐらい（メールが）来てますよ。見逃したら、（子どもの）重要な会議が始まるといけないと思ってずっと見てるんです。
- 今もいじめが起きるときは6人ぐらいの仲間に首謀者 A がいて、一人の子をみんなで攻撃します。でも、いじめられている子は、絶対に親や先生には言いません。なぜなら、大人は暴走するからです。今の子どもは、がまんしていればターゲットが変わることを知っています。だから、じっとがまんするんです。このグループの最終的なターゲットは首謀者だった A となります。最も激しいいじめになります。A はそのことが分かっているから、次々とターゲットを変える。決して一人にならない。トイレも友だちと一緒にやって密談させない。（密談は今は SNS 上ですが）
- 「学校を爆破すると SNS に書き込む」「友だちのテストの点数を SNS に載せる」「雑誌のアイドルの写真を SNS で投稿する」「〇〇うざいと SNS に書き込む」「パスワードを予想して友だちのアカウントにログインする」……これすべて子どもでも書類送検されます。
- 家庭でのルール作りは、スマホの使い始めにやるのが一番効果的。南小学校の場合は小1。もう多くの子が使っているから。（注意：買い与えるときではなく、「使い始め」です。）
- 友だちと同じルールが望ましい。同じだと同じように守る。（異なれば必ず緩い方に）
- 「困ったら大人に相談」を何度も指導することが大切。（保護者も学校も）
- 大人も一緒に学ぶこと。「禁止」は通用しない。（禁止だと相談に来なくなる）
- 大人がまず団結すること。
- ネット依存の子どもたちは、親のルールも自分のルールも守らないが友だちと決めたルールは守る傾向にある。
- 家庭のルールは何度も話し合って決める。決して押しつけない。（親が9時に終わらせようと思ったら、親は8時を提示して子どもと交渉する。）話し合いで決めたルールは自分の意見が反映されているので守ろうとする。

この講演会では、たくさん問題提起や

解決策へのヒントをいただきました。

今後、学校と保護者の皆さんで一緒に取り組んで

いきたいと思います。

※「校長通信第24号」は、新型コロナウイルスの感染拡大に配慮し、地域の方への配付は見送ります。学校ホームページで紹介します。